

5. 結核性頸部膿瘍の一例（抄録）

村松弘明、八十島唯幸、野村俊之、吉田友英、山本昌彦（東邦大佐倉病院）

亀田典章（同病理）

小田 恂（東邦大第一）

頸部リンパ節結核より頸部膿瘍を来した一症例を報告する。

症例は65歳、女性。右頸部腫脹を主訴に受診した。右側頸部に直経50mm×57mm大の表面平滑、弾性硬、可動性不良な腫瘤を認めた。頸部CTの結果、頸部膿瘍を認め入院となった。入院後、抗生剤投与による治療を行ったが改善傾向認めないため、確定診断のためリンパ節生検を施行した。病理組織検査の結果、頸部リンパ節結核の診断を得た。その後、抗結核剤使用にて病変の縮小を認めている。

頸部リンパ節結核症例ではリンパ節生検が重要であり、発熱や疼痛に乏しい頸部腫脹患者の診断に際しては結核性病変の存在も念頭に置くことが望まれた。